



令和元年 11月29日  
文京区立明化幼稚園

## 集団生活を通して育まれる協同性

園長 御手洗 竹代

季節は移り、今年のカレンダーも12月を残すのみとなりました。建替え工事に向けてまた、新たな塀が建ち、園庭の様子も変わりました。固定遊具の代わりとして区にお願いしていた太鼓橋が届き、少し子どもたちの遊びの拠点ができました。一方、屋上ではプランターに植えた大根の種から小さな葉が茂り、10cmほどに育ちました。植木鉢に植えた球根も小さな芽をのぞかせ、水やりを楽しみにしている子どもたちです。

さて、11月の3週目に幼稚園公開をいたしました。2学期も後半となり、どの学年も好きな遊びがあり、親しい先生、一緒に遊びたい友達がいます。3歳児はビールケースで囲った中に4、5人が集まり、担任と一緒にボールを転がしたり、音楽を鳴らして踊ったりして『先生と一緒に』が楽しい様子でした。4歳児は保育室一杯に遊びの場が広がり、「ウサギの家」「ネコを飼っている家」「お稽古の教室」など、名前を付けていました。そこで一緒に遊んでいる友達は『入れて・いいよ』の了解をし合っていました。5歳児は運動的な遊びに興じていました。レパートリーは「ドッチボール」「宝取り」「サッカー」「ラグビー」など様々です。10人以上が一緒に遊ぶためにはルールが必要で、緩やかながら、『自分たちで決めたことは守ろう』とする姿があります。

このように子どもたちの遊び集団は発達を踏まえて、少しずつ変化してきます。幼稚園教育要領の中で幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿では『協同性』として記述されています。『友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる』そして『幼児期に育まれた協同性は小学校における学級での集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりするなど、教師や友達と協力して生活したり学び合ったりする姿につながっていく』こととなります。

協同性が育まれる過程では友達と気持ちがすれ違う寂しさや、思う通りにならないもどかしさを味わうなど、負の感情を体験することもあるでしょう。上手くいく経験と同時に様々な感情体験をすることも子どもの成長には糧になります。義務教育につながる今後に向け、互いに学び合う関係性を育てていくことは大切です。幼稚園は活動の区切りを生活の中で決められる特性をもっています。これからも「好きな遊び」を展開する中で十分に協同性が育つよう指導の工夫を重ねてまいります。

2学期の終わりにあたり、学校運営についてご理解とご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。



ラグビーごっこで「スクラム」を組む5歳児



4歳児の作った遊びに3歳児が来てくれました